



137

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

事務局:〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
新館研修センター:〒357-0063 埼玉県飯塚市飯塚325-2 TEL.042-971-4121 FAX.042-971-4155
嬬恋研修センター:〒377-1611 群馬県吾妻郡嬬恋村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1662

2015 1/1

2面・3面 巡回公演だより／園からの声／制作だより ほか
4面 みんな伝承フェスティバル'宮城' JKA補助事業 ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: support@suginoko.org



平成二十七年元旦

忍野八海から富士を望む

迎えて 51年目の新年を

理事長 小澤 幸雄



明けましておめでとござい
ます！

皆様におかれましては、希望に満ちた穏やかな新年を迎えられたものと、心よりお喜び申し上げます。

すぎのこは、昨年創立50周年を迎え、「創立50周年感謝の会」、そして仙台で開催した「みんな伝承フェスティバル、宮城」の記念事業も無事終え、新たな心で、新たな一歩を踏み出したところ です。

「みんな伝承フェスティバル、宮城」は、平成24年度から始めて三年目となる、東日本大震災復興「夢と希望と笑顔の輪を！」祈念事業の第3回（集大成）として、また、創立50周年の記念事業として、仙台市の中央、青葉区にある「仙台市民活動サポートセンター」を借り切り、11月2日（日）・3日（祭）の両日開催し、祈念事業として、記念事業としても、大変好評裡に幕を閉じることができました。これは、開催趣旨を理解し共有し、開催迄一緒になって進んでくれた「NPO法人創る村」の館屋善敏理事長と、台湾台北市伝統芸術家師で旧友の「台湾

新興閣掌中劇団」の主宰者鍾任壁師の共助。

そして、趣旨に賛同し並々ならぬご支援ご協賛くださった「株式会社小学館」の相賀昌宏社長様始め、「一般財団法人日本児童教育振興財団」様、創る村に助成くださった「公益財団法人石橋財団」様、仙台連絡事務所は無償提供や広報面での支援をくださった「株式会社丸和」の尾形和優社長様。

並びに、地元の株式会社ライファップの岩淵徹様、株式会社ロジックの大槻正信様、株式会社ダイエー商事の佐藤一郎様、仙台ビジネスホテルの小野寺千嘉子様、お隣岩手県から「世嬉の一酒造株式会社」の佐藤暁僊様。

また「すぎのこ創立50周年感謝の会」においてご寄付、お祝いなどいただいた66名にのぼるすぎのこ支援者の方々々と、数え上げれば枚挙にいとまがないほどの大勢の方々の支えが有ったればこそと、感謝し、感激し、心から、心から御礼申し上げる次第です。

しかし、それだけで今回の事業が成立した訳ではありません。この事業の立役者は何と言ってもボランティアで出演参加してくださった36の個人と団体、そして円滑な会場運営のためにお手伝いくださった、東北福祉大学、仙台白百合女子大学、東北文化学園専門学校の有志学生諸君達！ その協力無くしての成

功はあり得ませんでした。

当方の事情から、出演者へのご案内が、開催までわずか三ヶ月足らずの短期間での開催は、今にして思えば、成功は元より実現すら覚束なかったものと、背筋の寒くなる思いでした。参加いただいた方々には改めて感謝の意を表します。

この度の出演参加者の方々に、平成26年度公益財団法人JKA様の補助事業で制作した「影絵紙芝居用舞台」一台と「影絵紙芝居用DVD」三巻6作品を贈呈し、大変喜んでいただけました。何よりの救いでした。参加者各自が、地元での活動にふるって利用くださることを願って止みません。

JKA様に心から御礼申し上げます。

50周年を記念したこの度の事業を、未来を担う子ども達の「夢と希望と笑顔の輪を！」広げる活動の礎とし、日々精進していく所存です。

50周年記念事業「みんな伝承フェスティバル、宮城」については、すぎのこの季刊紙やホームページでも紹介しています。お時間の許す時にご高覧いただければ幸いです。

皆様にとつて来る一年が、健康で明るく幸せな一年になりますよう心からお祈りし、日頃の感謝と御礼の言葉に代えさせていただきます。

平成二十七年 元旦

巡回公演だより

そつくりのくりのき班

榎本均

あけましておめでとうございませう。今年も皆様に人形劇をお届けにまいります。

ところでお正月はおせちを食べましたか？ 今の子ども達はおせちを食べているのかな？ そして、家庭ではおせちを作っているのかな？

というのも、以前「だいこん、にんじん、ごぼう」という作品で、私自身が演じていたある場面を思い出したからです。

内容は、ご存知の通り、なぜそれぞれ色が違うかというのですが、最後、これでおしまいという時、突然、間も入れず園長先生から「食べることも言ってく下さい」と声掛けがありました。一瞬「えっ」と戸惑いましたが、「みんな好き嫌いなく何でも食べようね」とセリフを追加しました。

今までこんなことはなかったのに、あせりと同時に自分に対していらだちましたが、後に園長先生の子ども達に対する愛情がわかって、気持ちがおほされました。

ふだん、私たち演技者は、いつも劇を観てくれた子ども達が何かを感じてくれたら、一番ベストな反応だと思っています。でもあの場面では、食べ物のこと、人は食べないと生きていけない、食べることは成長、そして命の大切さに直結していることを、保育の現場



で先生方は身にしみてわかっていらつしやったからです。

園長先生のその言葉、「食べることも伝えてください」に細やかで強い信念を感じました。

「凡人は鈍さも遅さも、ひとりよがりにならずつながりをもって伝えてゆくこと」ではないか。

私たちは、人形劇で今、何を伝えようとしているのか、気づかずに子ども達に向かってきれいなことを言っているまいか、上演の現場で、先生方や子ども達の直接の出会いにいろいろなことを想いめぐらせます。でもやはり遍く、小さな子どもの世界は素晴らしいと思つています。そこには、まだまだこれからだという希望を見いだされるから。

今年も元気な笑顔に会えることが本当に楽しみです。

ねずみの嫁入り班

下村あきこ

明けましておめでとうございませう。昨年は、すぎのこ創立50周年の年で、例年になく忙しく、慌ただしく過ぎた一年でした。しかし、その中でも上演を通じて、たくさんの子ども達、先生方との出会いがありました。

中でも特に印象に残っているのは、昨年11月2日～3日に宮城県仙台市で実施した50周年記念事業、東日本大震災復興「夢と希望と笑顔の輪を！」祈念事業第3回「みんな伝承フェスティバル、宮城」でのことです。

私は今回、初日の2日に「ねずみの嫁入り」を演じたのですが、その時、母親と一緒に観に来てくれた小学校一年生くらいの男の子がいました。一番前の席で、私と目が合うと恥ずかしそうに下を向いてしまうような内気(?)な男の子でした。上演が終わわり、人形でお客さんを送り出している時に、その男の子に、「明日も、かもとりごんべえの人形劇があるから観に来てね」と声をかけました。

翌日「かもとりごんべえ」の上演が始まりました。ごんべえさんとして舞台に出てみると、なんと、昨日と同じ一番前の席にその男の子がいたのです。正直、本当に来てくれるとは思っていませんでした。(ごめんなさい!)、びつくりすると同時に、「ありがとー」という気持ちでいっぱいになりました。

そして、笑顔で楽しんで観てくれていた姿に、ごんべえさんもとてもうれしくなりました。また、昨年11月にうかがった大分県竹田市の保育園の先生との出

園がらの声

うべー！ ドードー

■椎葉村上椎葉児童館 (宮城県東白根郡椎葉村)

子ども達に環境・自然保護について話すことはたいへん難しく、人形劇として伝えることにより、わかりやすく、少しでも理解できるのではないかと改めて思いました。

小さい子ども達もお話のなかに溶け込んでいき、楽しく見ていたようでした。

■式見保育園(長崎県長崎市) ヤシの実やハチ等、細かい演出に子ども達は大喜びでした。ドードーが海に落ちたシーンでは、子ども達が「がんばれー！」と一生懸命応援して、みんなお話の世界に入り込んでいるんだなと感じました。

楽しいだけでなく、メッセージも込められた、良い作品だったと思います。

■外海まどか保育園(長崎県長崎市) 「とべー！ ドードー」のお話は、子ども達にとつて難しいのではないかと思っていました。登場人物の演技に引きつけられ、よく理解しながら観ていました。観たあと、図鑑で絶滅した動物を調べたり、ドードーの絵本を何度も繰り返し見る子ども達の姿がありました。

ねずみの嫁入り

■勝目保育園(鹿児島県薩摩川内市)

子ども達は、テレビ、DVDなどで人形劇にふれる機会はあるので、子ども達と比べてみて)多くなってきたと思いますが、目の前で演者の息遣いを感じながら観劇することには及びません。ハラハラ、ドキドキしながら、息のみ、時には応援の声をかけ、手拍子をしている子ども達の姿に、大人のほうが感動しました。お二人の息の合った演技は、「さすがプロ」と言わざるをえません。こんな子ども達の姿を見せていただいで、感謝です。

わらしべ長者

■久慈学童保育所みつばちの家 (岩手県久慈市)

生の人形劇を見る機会がなかったので、みんなとても興味を持って見ることができました。最初のカバオ君とお姉さんのやりとりがとても楽しく、次の人形劇への期待がふくらみ、そして期待通りの人形劇でした。

■豊田児童センター(山形県長井市) 最初から子ども達の笑い声が絶えず、最後まで楽しく鑑賞することができました。2～5歳児までの異年齢での参加でしたが、どの年齢の子も楽しむこ

とができてよかったです！

■蛸ノ浦保育園(岩手県大船渡市) 結構長い時間でしたが、1、2歳児も飽きずに静かに見ることができました。三人の演技もとてもよかったです。人形や衣装などを間近で見ましたが、雰囲気を感じられるものでした。昨年12月のお遊戯会で「わらしべ長者」のおペレッタをしたので、お話の内容もわかっていて子ども達も身近に感じたようです。楽しい時間をありがとうございました。

そつくりのくりのき

■八束こども園(岡山県真庭市)

導入部分から、子ども達を引きつけ、笑いのうずが巻き起こっていました。

楽しいお話、心にじんこくるお話の二本立てでしたが、さすがのこさんと感じさせる演技と舞台、小道具の使い手など、すばらしかったです。

■日脚保育園(島根県浜田市) 50分間の子ども達の集中度のすごさ！目がキラキラし、いい笑顔で鑑賞している様子を見て、とても嬉しく思いました。また続けて来ていただけたらと思います。

■井尻野幼稚園(岡山県総社市) 「楽しかった！」感想を自ら言うに來る幼児の多かつたこと！パオ君が楽しかった。涙が出そうになる感動する場面もあつた。

楽しい内容の中にも、子ども達が考えさせられる場面があり、とても良い作品だと思えました。舞台から一生懸命さが伝わってきて、子ども達も応援をしたり、声援を送ったりしていました。

会いがあります。前に何回かお会いしているのですが、六年ぶりにもかかわらず、私のことを覚えていてくださり、「私は、来年で定年退職しますが、体が動くうちは、子ども達と関わっていきたいと思っています。下村さんも、まだまだ、現役でよい人形劇を続けていってくださいね！」とエールをいただきました。

このように、巡回公演をしていると、いろいろな出会いがあります。そして、そのひとつひとつの出会いには、私にとって宝物です。還暦もすぎ、正直「疲れた」と感じることも多くなってきましたが、今まで以上に健康に留意し、子ども達、先生方との出会いを楽しみに、今年も「心に響く人形劇」をお届けしたいと思えます。本年も、よろしくお願ひ致します。

わらしべ長者班

星野 翼

すぎのこに入団して半年が経ちました。初めて巡回公演をした時には、不安でドキドキしたのですが、回を重ねるごとに自分の目標が増えてきます。東北の子ども達に私自身が元気をもらいながら、皆様に楽しんでいただける舞台を作ろうと、今ではよい意味でドキドキワクワクしながらお芝居に励んでおります。

皆様にも、もつともつとドキドキワクワクしてもらえたら、とつてもとつても、うれしく思います。

とべー！ドードー班

岡部 千絵

あけましておめでとうございませす。昨年は春から夏は北海道、秋

は九州をまわり、たくさんの子どもの笑顔に出会ってきました。また今年もたくさんの方々の笑顔に出会えたらいいなと思っています。

「とべー！ドードー」は、地球環境のお話なので、リアルにいろいろなことを考えさせる作品だと思えます。

地震や噴火などいろいろな災害が、今たくさん起きています。地球は本当に悲鳴をあげているんだなと思う毎日です。

人間はどんな便利な世の中にしていくなかで、いろいろエコ的なものも作っていますが、もつともつと、小さいところからでも地球に優しくできればいいなと思えます。今生きている子ども達のためにも、これから生まれてくる子ども達のためにも、よりよい地球にしていければいいなと思えます。

この作品を通して、子ども達がいかにいろいろなことを考えてくれたら嬉しいですね。もちろん、私たち大人も考えなければいけませんね。

たのきゅうのうわばみたいじ

榎崎 数馬

「たのきゅうのうわばみたいじ」の主人公、「たのきゅう」は、一方で病身の母を思いやり、他方では友達の危機を救うため、知恵と勇気をふるって強く恐ろしいうわばみに立ち向かっていきます。

お話のテーマは、この「自らの知恵を使って事にあたること」「困難に立ち向かう勇氣」あたりにあると思えます。

実際、お芝居の中でこの要素が子ども達に伝わっているな、と感じる時には、うわばみと戦うたのきゅうに子ども達から声援が送られることがよくあります。

このテーマはまた、すぎのこが掲げてきた理想の子ども像である「わんぱく」の定義とも、合致するものでもあるのです。

どの子にもナマの舞台の感動を、という思いと、理想の子ども像を伝えたいという思い、それを人形劇という具体的な形にして全国に演じ届ける仲間達、そして何より、それを受け止めてくださる皆様と子ども達とが合わり重なる、50年というすぎのこの歴史を織り成しているのだと、改めて実感しています。

一旅、二旅を終えて、久しぶりに別の作品に関わっている班の稽古をのぞき見た時、半年前まではふらふらだった新人の人形がきちんと地面の上に立ち、木偶のままに見えた人形にやわらかな表情が垣間見えるようになったのを目にすると、思わず心がふわっと軽くなります。

創始者・小澤明は既になく、すぎのこを去っていった仲間も大勢います。彼らが、そしていま共にある仲間が、何より人形劇を見てくださった子ども達、大人達が、あたたかい感情とともにすぎのこのことを思い出せるよう、精一杯の日々を積み重ねていこう、と、すぎのこ51年目の新年に思えます。



たのきゅうのうわばみたいじ

■山方保育所(茨城県常陸大宮市)

団員の方の人形の動かし方がとても上手で、役になりきり感情豊かに表現していたので、子ども達は話の中に吸い込まれていくようでした。団員の方の思いが劇に現れていました。

子ども達みんな、物語の世界に引き込まれて楽しく見る事ができました。発表会の劇の演じ方にも刺激となったようです。

■外川保育園(千葉県銚子市)

男性の方は何役もこなされており、大変興味深かったです。また、人形を操作されている方のお顔が見えることで、年齢の

小さな子ども達にも安心感が伝わり、見入ることができたように思えます。長編ながらも、子ども達は飽きることなく、話の中に溶け込んでいく様子が見受けられました。

■瀬高保育所(沖縄県名護市)

(導入の)「だいこん・にんじん・ごぼう」は、ちょうど畑に野菜の種をまき育てている時期だったので、タイミングがとても合い、子ども達のイメージ作りに役立ちました。短い話でしたが、とても喜んで盛り上がりがありました。二人で何役もこなす、さすがプロですね。勉強になりました。生で見ることの大切さを痛感しました。

制作だより

一年の経つのは早いもので、もう新年のご挨拶をする時期になりました。

去年は、おかげさまで50周年を迎えました。8月には感謝の会をひらき、今までお世話になっていた方々と久しぶりにお会いでき、有意義な時間を過ごすことができました。11月には宮城県で「みんな伝承フェスティバル」を開催し、県内はじめ、たくさんの方々と民話を通してお知り合いになることができました。生前お世話になっていた、やなせたかしさんの作品「そっくりのくりのき」をリニューアル、再演できたのも、大きな出来事でした。

思えば、忙しく馬のように走り抜けた一年でした。皆様のお力添えをいただきながら、実り多い一年だったと思います。ありがとうございました。

今年は、新たな節目に向け、さらなる一歩を踏み出します。巡回公演で出会う子ども達の笑顔絶やさぬよう、子ども達の心の栄養となるような作品作りに励んでいきたいと思えます。黙々と草を食み、人を暖める毛皮をつくる羊達のように…

次年度の新作は「おだんごばん」です。すぎのこでは定番となりつつある、手遊びと歌の楽しい、繰り返しのあるお話です。おいしそうに焼けたおだんごばんが、おじいさん、おばあさんから逃げ、ひとりで外に飛び出して冒険するお話のなかに、子ども達はなにを見ているのでしょうか。先生方にご紹介するのも楽しみです。

今年もよろしくお願ひします。

(榎本 千里)

久々の旅公演

今回二年ぶりに俳優として旅公演に出る機会があり、西日本を二週間かけて巡回してきました。久しぶりの舞台は緊張の連続でしたが、改めて「ナマの舞台」の楽しさ、素晴らしさを実感する旅となりました。

ほんの1~2m先に座る子ども達からの熱い視線、笑い声、応援の声、歌に合わせて自然に出てくる手拍子。

準備の時から終わって会場を後にするまで、興味津々で何度もぞきに来てくれたり、車が見えなくなるまでずっと手を振ってくれたり、本当にあたたかい気持ちになりました。

また、先生方からもあたたかい言葉やお茶やお菓子、お土産やお弁当までいただく機会があり、そのおもてなしの心にも感動いたしました。

ある先生が観劇後に、「保育士の先生が子ども達に見たのを覚えていましたよ」と教えてくださいました。その保育士さんは今回観劇するまで忘れていたようですが、観劇中に「あ、これ昔見たことある！」とパッと思い出したそうです。

改めて「50年」というすぎのこの歴史を感じた出来事でした。これからもこんなふうにも子ども達の心に残る作品を作り、全国で待っている子ども達に「ナマの舞台の感動」を届けて行きたいと思えます。

(白石 高章)



▲福岡県宗像市 野ばら保育園

▲鹿児島県伊佐市 みどり保育園

▲鹿児島県南さつま市 加世田保育園

みんな传承フェスティバル、宮城

「みんな传承フェスティバル、宮城」 出演参加者のお便り

ご紹介させていただきま

■飯炊河娯女会 戸澤由理様
心に残る数日間となりました。県内から参加された有志の方々とも、交流会や会場でお話をする



「とても楽しい！」との声が聞かれました。宮城県での開催をありがたく思っております。感謝感謝!! 今回のフェスティバルでは、すぎのこの若い団員さん達(若くない方もいましたケド...)とお話する機会がありました。劇団への熱い思い、子ども達への思い等々聞かせていただき、皆様の熱意がすぎのこをますます盛り上げてくれるものと感じました。期待していますよ!

*
久しぶりにあのよ
うなイベントに参加
させていただき、心底楽しませて
いただきました。ありがとうございます
でした。小生の熊本が一番遠く
だったとは言え、何かとお気遣い
を賜り恐縮致しました。芝居はト
ント下手で、皆さんの足許にも及
ばず反省しております。でも、ま
た、機会がございましたら、お誘
いを待っております。

*
■腹話術びっかり
ぶらざーず
福田勇一郎様

■おはなしカメさん宮城 筑波裕子様
すぎのこの皆さんの行き届いた
御配慮と心配りに、素人のオバサ
ンはすっかり安心してお世話にな
ってしまいました。全部見られな
かったのが残念でしたが、演劇も
素晴らしくステキでした。本当
にお世話様でございました。

*
■飯炊河娯女会 増子裕子様
会場の仙台市民活動サポ
ーターもほよい広さで、雰

主催/公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会
共助/NPO法人創る村・台湾新興閣掌中劇団
後援/宮城県・宮城県教育委員会・仙台市・仙台市教育委員会・
日本ウニマ(国際人形劇連盟日本センター)・日本民話の会・
台北駐日経済文化代表處・河北新報社
協賛/(株)小学館 (一財)日本児童教育振興財団
助成/(公財)石橋財団
協力/(株)丸和仙台オフィス
支援/尾形和優音楽事務所・世嬉の一酒造(株)・仙台ビジネスホテル・(株)ダイエー商事・
(株)ライフアップ・(株)ロジック・50周年記念事業支援者66名

11月2日 出演団体/台湾新興閣掌中劇団、NPO法人創る村、人形劇団ばふ、
腹話術びっかりぶらざーず、かざぐるま、パネルジャム、ミュージックシアター我亦紅、
仙台むかし話の会、おはなしカメさん宮城、劇団檸檬座、飯炊河娯女会、
にんぎょうげきだんつきほたる、語り部オンチャン、七郷朗読奉仕会、
みいちゃんのちいさなおはなし、紙芝居屋ももたろう、かと れあproject、劇団すぎのこ
出演個人参加/米倉薫、吉田健一、榎崎数馬、野見山太輔、諏訪明日香、菅谷香純、
石山和佳、鳥居正幸、星野翼

11月3日 出演団体/台湾新興閣掌中劇団、NPO法人創る村、人形劇団ばふ、
腹話術びっかりぶらざーず、かざぐるま、パネルジャム、ミュージックシアター我亦紅、
仙台むかし話の会、おはなしカメさん宮城、飯炊河娯女会、語り手たちの会・みやぎ、
紙芝居文化の会みやぎ、ばねるんるん、ほんわか劇場、東北大学人形劇団星座、
ロコス腹話術研究会仙台支部、お話三人の会と仲間たち、おはなしの会びいかわう、
劇団すぎのこ
出演個人参加/米倉薫、吉田健一、岡部千絵

(スタッフ) 総合制作/下村 明 総合監督/須田斉政 音 響/和田光昭 照 明 /榎本 均
宣伝美術/石橋鉄二 地区制作/鈴木崇史・伊藤正喜・鉛屋善太 制作進行/浅野茜子

みんなすぎのこ④

歌は世につれ 歌は平和のシンボル

昨12月の末、私の弟が古希を迎えました。昭和19年・さる歳の生まれです。

私は、先輩のお祝いなどに招かれた時、誕生の年の「歌」を歌集にして届けて、みんなで歌うというプレゼントをしてきました。昭和16年生まれなら「里の秋」や「船頭さん」。17年の生まれなら、「野菊」や「森の水車」などなど。

で、19年の「歌」を調べました。有りません。18年の歌も、もちろん20年の歌も有りません。

21年になると、「みかんの花咲く丘」が発表されましたし、「蛙の笛」も…。22年になると「花の街」や「夢のお馬車」「山小屋の灯」など、どんどん、出てきます。

なるほど、戦争の時代は、軍歌以外は生まれなのだと、納得しました。まさに「歌は世につれ」と改めて、感じました。

新年は、あの終戦から満70年。幸い平和が続きました。また、何年かのち、平成〇〇年の「歌」は無いなあ…とならないように、願っています。

歌が無ければ、もちろん、幼児の情操教育、人形劇などは、論外でしょうから。

(下西 勝彦)

12 / 26 第二学期全国巡回公演終了

11 / 28 影絵紙芝居の作り方講習会開催 於・川辺幼稚園(鹿児島県南九州市)

11 / 23 すぎのこ創立50周年記念事業「みんな传承フェスティバル、宮城」開催 於・仙台市民活動サポートセンター(宮城県仙台市)

活動記録(平成26年10月~12月)



公益財団法人 JKA補助事業



気も素晴らしい!との声が聞かれました。宮城県での開催をありがたく思っております。感謝感謝!! 今回のフェスティバルでは、すぎのこの若い団員さん達(若くない方もいましたケド...)とお話する機会がありました。劇団への熱い思い、子ども達への思い等々聞かせていただき、皆様の熱意がすぎのこをますます盛り上げてくれるものと感じました。期待していますよ!

この他にも、フェスティバル参加者の方々から嬉しいお手紙が、たくさん届いております!

公益財団法人JKA「平成26年度 青少年の健全な成長を育む活動」補助事業が完了致しました。今年度の事業では、民話伝説傳承の普及発展を図ることを目的として、「影絵紙芝居DVD」各100枚(2枚1組、各100セット)計300セット及び「影絵紙芝居用舞台」50台を製作しました。日本人の素晴らしい精神文化を育んできた日本古来の民話や伝説を題材に「つるのおんがえし(1月)」「ぶとりじいさん(2月)」「ねず

みのよめいり(3月)」「はなさかじいさん(4月)」「いつすんぼうし(5月)」「ふるやのもる(6月)」の6作品をDVDにしました。このDVDと舞台は、「みんな传承フェスティバル、宮城」において、みんな传承活動家である出演参加者・協力者の方々へ無料贈呈致しました。このプレゼントが、地元宮城県をはじめ全国各地から集まったみんな传承活動家の皆さんの手で生かされ、被災地はもちろん、全国各地の子ども達に笑顔

の輪が広がっていくことを期待しております。

補助を賜りました公益財団法人JKAのご支援に心より御礼申し上げます。

影絵紙芝居用舞台 設計・製作/高木政則(なかよし工房)

影絵紙芝居DVD 監修/小澤幸雄
演出/下村あきら
影絵/上田順一
音楽/夏原明彦
宣伝美術/石橋鉄二
写真/森田研作
製作・撮影協力/南ブレイク・タイム
声の出演/北斗誓一・板垣真由子